

○政務活動（行政視察・研修）報告書

政務活動実施状況

会 派 名 (参加者)	創生会 (水島美喜子、多比良和伸、山下克己、伊藤俊喜、石田健太)
視察・研修名	(1) 見附市「スマートウェルネスみつけ（健康づくり事業）」 (2) 見附市「学校給食センターの民間事業所の活用」 (3) 新潟市「寺山公園子育て交流施設い〜てらす」
視察・研修の 目 的	事業実施に至る背景・経緯、概要、効果、課題等について
目 時	令和7年1月28日（火）～30日（木） ※行政視察＝1月29日・午前10時～30日・午前11時
視 察 研 修 の 概 要	(1) 見附市「スマートウェルネスみつけ（健康づくり事業）」 【日時】 29日（水） 10:00～11:10 【担当】 見附市議会 議長 渡辺美絵 氏 見附市議会 議員 星野雄哉 氏（総務文教委員会委員長） 企画調整課総合政策室 室長 姉崎 晋悟 氏 ①経緯 超少子高齢化及び人口減少社会を鑑みて、コンパクトかつ機能的なまちづくりを推進する中、特に平均寿命の延伸を考慮し医療・介護等の社会保障費の負担増の抑制を図るため健康づくり事業を重点に置く。このことにより“健幸”という言葉キーワードに「スマートウェルネスみつけ」事業を立ち上げ「生きがい」「食生活」「運動」「健（検）診」の4つの柱を掲げ各種事業の充実・強化に着手。 ②事業概要（運用） ・ 中高年層の仲間づくりを推進するため、拠点整備やスポーツ等のレクリエーションを実施 ・ 健康の駅を設置し、保健・医療・福祉・生活・経済・心に関する情報提供や相談業務を実施 ・ 健康運動教室を展開しながら体力年齢と医療費の相関関係を検証 ・ 小児生活習慣病予防として小学4年生と中学1年生に血中脂質や肥満度を検査 ・ 快適な歩行空間の整備と都市機能（施設）の集積 ・ 地域コミュニティを促進するための町内団体の連携 ・ 町内団体への車両（コミュニティワゴン）の貸与（地域活動用） ・ 市職員の地域サポーター登録 ・ 健康ポイントアプリの導入 ③効果 ・ 地域コミュニティの広がりによる賑わいや協働意識の高まった ・ 医療費（国保・後期）及び介護給付費が全国平均を大きく下回る

※視察研修の概要には、視察研修先等を含め記載のこと

視 察 研 修 の 概 要	④課題 若年層の参加及び健康リテラシーの促進 ⑤その他 見附市は新潟県の中央に位置し人口は約3万8千人、世帯数は約1万5千世帯で行政面積は砂川市とほぼ同じの77.91km²の都市。 市町村合併の議論も持ち上がったが単独の道を選択し、以来、人口減少や高齢化に伴う社会保障費の負担増を抑制しつつ地域の活力を創出するための事業に注力してきた。また、子どもたちが放課後や休日に自由に利用できる“遊びと学びの場”（プレイラみつけ）を設置するなど、子育て環境にも力を入れている。これら事業を展開する上で効率的な行政運営を視野に施設の集積や拠点施設の整備を施すなど、小さい行政面積を利点としたコンパクトかつ機能的なまちづくりは高く評価され平成29年に第1回コンパクトシティ大賞（最高賞・国土交通大臣表彰）を受賞している。 （2）見附市「学校給食センターの民間事業所の活用について」 【日時】 30日（水） 11：10～12：00 【担当】 教育総務課 課長補佐 岩崎 済 氏 学校給食係 係長 岸本浩之 氏 ①経緯 現有の給食センターや学校に付帯する給食調理場の老朽化に伴い、運用コストも考慮し市内13校の給食調理を一元化する新給食センターの建設に着手。 その際、他の公共施設と異なり厳格な設置基準により建設費が高額になること、加えて稼働時間が短いことを考慮し、施設の効率的な運用を図りながら一定の財源を確保するため民間事業所の活用を検討する。 国庫補助を受けるにあたり民間事業所の共同利用（多目的利用）は障壁となっていたが、先例のないモデル地区とした観点から実現に至る。 なお、給食センターの指定管理者制度は認められていない。（自治法上） ②事業概要（運用） ・ 建設の基本設計において、給食調理と民間の営業用調理は可能な限り混同しないよう措置 ・ 公募型プロポーザルを実施し給食調理を受託できる企業のみ民間活用を認める。これにより衛生面の安全を確保 ・ 民間事業所による営利目的とした調理は容認 ・ 行政側は施設使用料として光熱水費等から一定額を算出し徴収。なお営利割合による徴収はない ③効果 給食センター機能としてはコスト面含め一定の成果が見込める状況にあるが、民間事業所の営業目的とした運用はこれからため、その効果は今後の評価となる。なお、今後は配食サービスなど運用方法によってはより実用価値の高い活用も見込まれる。
--------------------------	--

視 察 研 修 の
概 要

④課題

通年利用により調理機器の消耗が激しくなり機器の更新時期が早まる可能性がある。また施設修繕や機器更新は夏休み等の長期休業期間に行うのが一般的であるが民間事業所が通年稼働となると工期の確保が難しくなる。

⑤その他

視察前は衛生面や食品及び物品管理に疑問を感じる部分もあったが、給食調理も営業用調理も同一業者が行うことでその課題を解決しているところが有効的手段としてよく考えられていた。今後は給食サービスなど福祉事業用として活用するなど多目的に利用できる環境が整ったという見方もあり実用事例として今後の取り組みにおいても注視したい。

(3) 新潟市「寺山公園子育て交流施設い〜てらす」

【日時】 30日(木) 10:00~10:40

【担当】 い〜てらす 鈴木美帆 氏

①経緯

少子化問題や子どもの健やかな成長を促すことを主な柱に子育てに関わる多様な支援を構築するため、保護者や子どもたちの交流も視野に入れた多機能型拠点施設を整備。加えて特に冬は降雪等により屋外での活動が厳しく、家にこもりがちになることから、屋内型の施設を有用かつ必要と判断した部分も一つ背景にある。

②事業概要(運用)

- ・ 運営は公設民営として民間事業所に委託
- ・ 施設利用は基本的に0歳児から小学3年生まで(子育て支援ゾーン)
- ・ 隣接する公園や施設内の飲食が可能なテラス(食事提供はなし)は年齢制限なく利用可
- ・ 施設内には授乳用やおむつ替え用のスペースを完備
- ・ 予約制で子どもの一時預かりも実施(1時間300円・最長4時間)
- ・ 誕生会やおしゃべり会等の多彩なイベントも開催

③効果

子どもたちはもとより保護者からも好評を博しており、年間の利用者は延べ10万人にもものぼる。特に冬期間は子どもたちの居場所として大変有効的に活用されているとのことである。また満1歳から未就学児の一時預かり保育は保育園や幼稚園を利用しない保護者等から手厚い支援として利便性の高いサービスと高い評価を受けている。

④課題

開設後5年が経過しているが現時点で特になし

⑤その他

厳寒で降雪の多い地域にとっては、当該施設は冬期間の子どもたちの居場所そして保護者を含めた交流を図るものとして非常に有用なものとして見受けられた。また、咄嗟の一時預かりも高評で子育て支援に関わる多機能な拠点整備の必要性を強く感じるものであった。

研 修 の 様 子

(1) 見附市「スマートウェルネスみつけ」



(2) 見附市「学校給食センター民間活用」



(3) 新潟市「寺山公園子育て交流施設い〜てらす」

